

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームたじま 2階		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	平成24年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人の為、母体病院の主治医と看護師と連携を図り、充実した医療を行っている為、入居者様、ご家族様には「安心できる」と言ってもらっています。
 また母体の病院にて月～土曜日の朝1時間のリハビリに行き、歩行訓練、歌や踊りを楽しんでいる為、毎日刺激のある生活を送っていただいています。
 ホーム内ではのんびりと穏やかに過ごして頂きたい為、入居者様の希望に沿ったケアが行えるよう心がけています。
 また週1回、外出日を設け入居者様の希望に添ってドライブ、買い物、喫茶等を楽しんで頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に古くからある病院が母体のグループホームで医療連携が密に行われており、24時間体制で入居者様の状態に対応しています。入居者様の多くは近所の方で、主治医が継続して状態を把握しています。主治医と看護師、事業所職員との連携が細かく行われ、看護師が毎日来てスタッフとの情報交換をはじめ、入居者様の状態を観察しています。平日は母体病院のリハビリに行って、そこに通う地域の方々との交流が続いており、以前と変わらない関係を保つことが出来ています。スタッフは年齢の幅が広くお互いを認め合い協力し合い助け合う雰囲気が出ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の掲示板、詰所内に職員が常時見られるよう掲示し、理念の共有ができています	去年法人の理念から各ユニットごとに職員間で話し合っ、理念を作成しました。理念の共有のためスタッフ間のコミュニケーションを常に意識しており大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の病院に地域の方が踊りの慰問等に来て下さっている。また毎朝のリハビリ時に地域の方と挨拶を交わしたり、同じフロアで体操をすることで交流が図れている	母体病院のリハビリに平日9:30~10:30の間全員参加しており、地域の方と一緒にこなっています。近所の小学生やお年寄りがトイレを借りに来ることもあり、立ち寄りやすい施設となっているようでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を入居者様のご家族様にお渡ししている。また母体病院に外来患者様に広報誌を設置することでグループホームへの理解を深めていただけているようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に行事、グループホームに関する事を報告し、意見をいただきサービス向上を図っている。	法人内の他事業所と他のグループホームと市の職員が参加して行っています。家族の方のどなたかが代表で可能な限り参加しています。会議で行った内容についてはスタッフに伝達をしています。	家族の方の参加が毎回あることを期待します。またスタッフの参加により、さらに多くの視点が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員に参加して頂き、アドバイス等をいただいている	市職員との情報交換を行っており、他のグループホームの事例等参考にしています。また、避難訓練のアドバイスや研修会にも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修等で職員には周知している。また玄関は施錠していないが、ユニットから外へ出る入口は緊急時のみ施錠するようにしている	グループホーム内で毎月1回会議の後勉強会等を行っています。入居者様個々にカンファレンスを行いスタッフから「これは拘束になるかもしれない」などの議題が上がって来ます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待はないが言葉の虐待や拘束とならない様、日ごろから職員間で確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様はいないが、資料等配布し学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、書名、捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話での近況報告の際に、いろいろとお話をする中で意見が聞きだせるよう、雰囲気作りに努めている。またその意見をケア会議等で話し合っている	家族から要望が聞き出せるように意識した対応を心がけている。運営について特に無いが入居者様についての要望がある時は、ケアに反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、連絡ノート、申し送り等で聞き反映させている	会議等での意見交換・提案など活発に出されているようです。 1日の業務の流れをスタッフ自ら作るなど職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は母体の病院のリハビリ時、週三回の来所時に職員の状況や変化を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する事で知識、技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、グループワーク等で意見交換を行ったり、他事業所の運営推進会議に参加させていただき参考にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等をゆっくりと伺い、しっかりとコミュニケーションを図る事で関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に要望等を伺う。来所の際にも職員から積極的に近況報告等を行うことでコミュニケーションを図っており、話しやすい関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で今のニーズを把握できるよう、しっかりと聞き取りを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に「介護される側」にたち、支援するよう日頃から口頭で伝え、確認している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはスタッフが間に入り、ご本人様とご家族様を交えてのコミュニケーションを心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週一回の外出時に、馴染みのあった地域にドライブや買い物に出掛けるようにしている	毎週日曜日にドライブに近所に出かけ、入居者様の昔の関係を思い出して喜んでもらっている。また、地域のイベントにも参加するなど馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様同士の会話を繋ぐ事により、孤立しない様支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、依頼等があった場合、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をしっかりと把握する事。またご家族様からも情報を得る事でケアに反映できるように努めている	入居者様から比較的はっきりと意思表示があるので希望にそうようになっています。食事については「美味しい。まずい。」とはっきりと言って下さる方はおられ、日々改善しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様に伺った生活歴等を職員間で共有し、把握に努めている。また日常会話の中でなじみの暮らし方を聞き出す事ができている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入居者様の状態を個人記録に記入し、情報を共有している。そこから情報を収集し、入居者様には興味のある事をして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で意見及び情報交換を行い、最長で6か月に1回、ケアプランの見直しを行っている	毎月ケア会議をスタッフ全員で行っています。スタッフから意見を出し合い、また主治医の意見も参考にして現状に即したケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、申し送り等で情報を共有、会議で検討したプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向を汲み取り必要な場合、ケアプランに活かし支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で包括支援センター職員や、老人クラブ会長から情報収集を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の医師や協力医、又はご家族様の希望されているかかりつけ医と密に連携をとる様、心がけている。かかりつけ医への通院はご家族様の協力が必要となってくる	現在当法人以外の主治医である入居者様はいなく、主治医、看護師、職員が連携して適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院から月～土曜日に看護師の来所がある為、その都度状態報告を行い、適切な看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、ホームより情報提供書をお渡ししている。また早期退院が出来るよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族様に医師から十分な説明を行い、職員からもホームとしての指針の説明を行う事で支援に取り組んでいる	母体が医療機関という事もあり、病院と連携を取りながら重度化や終末期の対応に努力されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを詰所内に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施。火災マニュアルも作成し、消防署の方の協力を得て消火訓練も行っている。また地域の方にも参加して頂いている	グループホーム単独で行っています。参加者は消防署の方が来て地域の方(老人クラブ等)市の職員の方が参加しています。また運営推進会議の前に行っておりその後すぐに意見を貰い対策に役立っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の羞恥心に配慮した声かけにて支援している	周囲のことが気になる入居者様が多く、声掛けや介助の時など、プライバシーに配慮しながら対応するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方に関してはご自分で決めていただいている。しかし意思表示が難しい入居者様は表情を伺ったり、いろいろな選択肢をお伝えし、できるだけご本人様に決定して頂ける様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先とならないよう、日ごろからスタッフ間で確認し合っている。また入居者様の意向が優先できるよう、できるだけご希望にそった一日を過ごして頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身に着て頂く服を選んでいただいている。時々スタッフがお化粧をさせていただいたり、髭剃りをご自身ですて頂いたり、その人らしくおしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付けの際には出来る範囲で入居者様と行っている。また、メニューに関しても行事食、外食等でお好きな物をお出しするようにしている。嫌いな物についても極力、対応している。	母体病院の栄養士が作ったメニューをベースにした食事を提供されていました。また入居者様の体調やレベルに合わせたメニューに変更するなど細やかな配慮も窺えました。外食にも出かけ楽しい食事を心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに沿って調理をしている。また食事以外にもティータイムの時間を設け水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とまではいかないが、朝夕は声かけ、介助にて口腔ケアを行い、その他は必要に応じてして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のパターンを把握し、それに合わせて羞恥心に配慮した声かけや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている	基本的にはおむつは日中使用している入居者様はおられません。体調が悪い時トイレに行くことができない方はやむをえず使用されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量に配慮している。また主治医指示の下、運動や下剤等で排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが時間内での希望には対応している。しかし入浴を希望されない方もいる為、できるだけ入浴していただけるような声かけを行うが無理強いはしていない。	一人ひとりに合わせた入浴支援に努めておられました。入浴拒否のある方にも、できるだけ入浴していただけるよう工夫されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や日中の休息時間は入居者様のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の下、薬状をしっかりと確認し理解を深めている。また変更等があった場合には、ノートに記入し情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意とされている分野で力を発揮して頂くようにしている。また感謝の言葉をお伝えする事でご本人様にやりがいを感じていただける様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体病院で行われている月～土曜日の朝1時間のリハビリへの参加。週一回、外出日を設け希望に応じて外出している	月～土曜日に母体病院にリハビリを目的に外出しています。毎週日曜日には、ドライブに出かけるなど、日常的な外出支援がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自身で所持している人はいない為、ホームにてお小遣いをお預かりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけていただく事が出来る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間で工夫し、季節の掲示物等で季節感をだし、混乱を招かない様居心地の良い空間づくりに努めている。また入居者様も掲示物の作成に意欲的に参加して下さる	グループホーム内に中庭があり空間の広がりを感じられます。また空間作りは入居者と一緒行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを、廊下に長椅子を、和室にこたつを設置しそれぞれお気に入りの場所で仲の良い方と過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持っていただける方に関しては、家具、寝具等を持ってきていただき、自宅と同じような雰囲気でも過ごして頂ける様工夫している	部屋が1つ1つ違って個性がよく出た雰囲気になっています。部屋の照明も一般家庭用の物が取り付けられてあり、自宅にいるようにして過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状況に応じて、会議で検討しフロアー、居室、共同トイレ等工夫している		